

日本ペスタロッチャー・フレーベル学会 第34回 大会 プログラム

2016年 9月10日(土)・11日(日)
広島大学東千田キャンパス

I 日程

9月10日(土)		9月11日(日)	
全国理事会	11:00~12:30	受付開始	9:00~
受付開始	12:30	自由研究発表Ⅱ	9:30~12:00
総会	13:30~14:15	昼休憩	12:00~13:00
自由研究発表Ⅰ	14:30~16:30	シンポジウム	13:00~15:30
移動	16:45~17:30		
懇親会	17:30~19:30		

II 会場・発表時間

全国理事会	大学 教室棟2階 207 教室
理事控え室	大学 教室棟2階 208 教室
自由研究発表	大学 教室棟2階 207 教室
会員控え室	大学 教室棟2階 208 教室
総会・公開シンポジウム	大学 教室棟2階 207 教室
懇親会	広島鯉城会館地下1階 吉山ビュッフェ

【発表時間】自由研究発表は、1人25分、質疑応答5分です。

III 大会参加費・懇親会費

大会参加費は、会員4,000円、学生会員2,000円、非会員2,000円(1日参加:1,000円)、
懇親会費は、一律5,000円です。

*大会当日、受付にてお支払い下さい。

IV 大会事務局

日本ペスタロッチャー・フレーベル学会 第34回大会実行委員会

〒737-0004 広島県呉市阿賀南二丁目10-3 広島文化学園大学阿賀キャンパス 渡邊満研究室
(E-Mail: watanabe@hbg.ac.jp 電話:0823-74-6324〔直通〕

当日090-2704-3032)

委員長:渡邊 満 委員 協カスタッフ:都田修兵(広島大学大学院教育学研究科院生)

第1日 9月10日(土)

〈 総 会 〉 大学 教室棟207教室 (13:30~14:15)

*総会は、一般会員の方のみご参加ください

〈 自由研究発表I 〉 大学 教室棟207教室 (14:30~16:30)

司 会 鈴木 由美子 (広島大学)
椋木 香子 (宮崎大学)

14:30~15:00

雑誌『国民教育』に見る「国民保育」論
—特輯記事を中心に

浅野 俊和 (中部学院大学)

15:00~15:30

イギリスにおけるE. ヘルヴァルトのフレーベル主義教育の普及活動について

田岡 由美子 (龍谷大学短期大学部)

15:30~16:00

明治期(1868-1912)日本におけるフレーベル主義幼稚園受容の特徴

小笠原 道雄 (広島大学名誉教授)

16:00~16:30

総括討議

〈 会 場 移 動・休 憩 〉

〈 懇 親 会 〉

会場: 広島鯉城会館地下1階 吉山ビュッフェ

時間: 17:30~19:30

【懇親会会場へのアクセス】

住所 〒730-0051 広島県広島市中区大手町 1-5-3 広島鯉城会館地下一階
電話 082-504-8250

交通アクセス: 学会会場から1番と3番の電車で5分「本通り」下車、平和公園方面に徒歩約3分、JR広島駅から電車、バスで約15分、「紙屋町西」下車、徒歩3分。バスセンターからは徒歩で南へ約3分。

第2日 9月11日(日)

〈自由研究発表Ⅱ〉 大学 教室棟 207 教室 (9:30~12:00)

司 会 浜田 栄夫 (山陽学園大学)
小川 哲哉 (茨城大学)

9:30~10:00

ヘルバルトにおけるカタストロフィー理論について

駒木根 剛 (近畿大学九州短期大学・
町田福祉保育専門学校)

10:00~10:30

19世紀後半におけるヴェローナの幼稚園
—「イタリア教授同盟」の機関紙分析を通して—

オムリ 慶子 (関西学院大学)

10:30~11:00

ペスタロッチーの言語教育思想と人間形成の理念

津田 純子 (新潟大学教育・学生支援機構)

11:00~11:30

幼稚園令制定過程の再検討

湯川 嘉津美 (上智大学)

11:30~12:00

総括討議

〈 昼 食 ・ 休 憩 〉

〈公開シンポジウム〉 大学 教室棟 207 教室 (13:00~15:30)

〈 公開シンポジウム 〉

題目： ペスタロッチー・フレーベル研究のグローバル化とは何か
—2016年ドイツ・カッセルにおける国際フレーベル協会大会に参加して—

司会者：勝山 吉章（福岡大学）
寺岡聖豪（福岡教育大学）

趣旨説明：渡邊 満（広島文化学園大学）

提案1：イギリスにおけるフレーベル研究の現状

田岡 由美子（龍谷大学短期大学部）

提案2：フレーベル幼稚園を参観して

柚木 香子（宮崎大学）

提案3：ニュージーランドにおけるフレーベル研究と幼稚園教育の現状

湯地 宏樹（鳴門教育大学）

提案4：ドイツにおけるフレーベル研究の現状—ハイラント教授の報告とバート・ブランケンルクのフレーベル博物館の研究活動を中心に—

松村 納央子（山口学芸大学）

〈 趣 旨 〉

わが国における教育研究と教育実践は、明治初め以来、小学校教育においてはアメリカの師範学校におけるJ.H.ペスタロッチー主義の教育実践の導入からはじまり、やがてブルックドルフとイヴェルドンにおけるペスタロッチー自身の教育思想と教育理論の研究の開始によって深められてきた。また、幼稚園教育は、フレーベルの幼稚園教育と幼児教育思想に大きく影響された内外の実践家によって実践され、やがて日本人自身の質の高いフレーベル研究によって、深化発展がなされてきた。

本学会を中心とする二人の人物とその教育思想・理論と実践に関する研究の積み重ねは、わが国の教育研究の質的発展と初等教育と幼児教育の実践家養成に寄与してきたが、今わが国を取り巻く情勢は大きく変貌しようとしている。グローバル化という世界的な動向は、社会や経済、そして産業の分野に限定されるものではなく、学校教育においてもその根幹を揺るがすほどの大きな意味を有しているように思える。このような情勢の中で、本学会とこれまで積み上げてきた研究の営みは、もはやわが国の中でのみ展開することは困難となっている。

このような情勢の中で、わが国におけるペスタロッチー・フレーベル研究と学会それ自体が向かうべき方向がどのようなものなのかとの考究は、避けて通れないように思われる。グローバル化は、単に国際化という外からの流れにとどまらず、経済や産業の側面では、これまで以上の世界的な競争の激化を意味しており、積極的にとらえれば、わが国が世界と対等に対峙することでもある。教育や教育研究においても同様であり、外に学ぶという一方向の時代は終わり、世界の国々の共通課題に取り組み、積極的な役割を果たすことが求められている。かねてより国際フレーベル協会からは本学会に対して本格的な交流が求められてきたが、本学会もわが国の固有の課題にのみ取り組むのではなく、それがグローバル課題であることを見据え、世界の実践家と研究者と協働してこの課題解決に取り組むことが必要となっている。

そこで、第34回大会シンポジウムでは、これまで一部の研究者や実践家が参加してきた国際フレーベル協会の活動に焦点を合わせ、本年6月にドイツ・カッセルにおいて開催された国際フレーベル協会の第7回大会がどのようなものであり、何が議論されていたのかを会員の皆様とともに検討し、この学会に私どもの学会がいかに寄与するのか、そしてグローバル化の中で私どもの研究活動がどのようなものでありうるのかについて皆様と探ってまいりたい。